

平成26-27年度 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理表

居場所づくり部会

具体的な活動内容	誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる
----------	-----------------------

Plan (当期アクションプラン)	(平成26年度～27年度) ・企画をする ・4圏域の中から実施エリアを決める ・情報を集める ・実施する (平成27年度～)・考察、検討 ・活動者を増やす
目標(値)	(平成26年度)1拠点

評価基準
A 計画どおり実施済
B 計画の50～100%未満の実施
C 計画の1～50%未満の実施
D 未実施

成果	目標値に対する成果	・居場所づくり部会の拠点を、社協地域活動拠点「ほっとハウスみどり」に設定した。 ・他地域で行われている居場所づくり活動の視察や社協活動拠点「ふれまちルーム」でのモデル的な取り組みを行うことにより、誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所「よってらっしゃい」サロンの取り組みにつながった。
	取り組みに対する成果	・サロンを継続的に行うことで、その拠点を通じてつながりができ、そこから地域の情報や課題が入るようになった。 ・地域課題を解決するための話し合いの場を設けるなどして、住民の意識の向上に寄与している。

できること・したいこと		Do (当期の実施状況)	Check (自己評価)			Action (進行管理委員会からの意見・提案等)
担い手等	活動計画記載事項		評価	取り組んだこと(良かったこと)	今後の活動に向けて(課題等)	
市民 (できること)	・人に声をかけて、誘う ・人の良いところを見つける ・活動に参加をする	・居場所の情報収集として、市内のサロン見学、意見交換を行った。 ・社協地域活動拠点「ふれまちルーム」にて、誰もが立ち寄れる居場所作りを検証した。 ・活動を知ってもらうためのチラシを配布し、誰でも立ち寄りやすいイベントとして、フリーマーケット、七夕会、クリスマス会を実施した。 ・新規拠点候補地(現緑町ほっとハウスみどり)を社協に紹介した。 ・社協新規拠点の開設準備会に参加し、開設後すぐに「よってらっしゃい」サロンを毎週開催した。	A	・参加者が協力者として活動するようになった。 ・小学生のクチコミで参加者が増えてきており、子どもたちの居場所になってきている。	・室内で待っているだけではなく、屋外で声かけすることで立ち寄りやすくする。 ・小学生が室内を走り回ることもあるので、目配りをする。 ・悩みを抱えた方、福祉課題を抱えた方に来ていただけるようにする。 ・地域との関わりを大切にして参加者を増やし、ネットワークを作る。	・居場所づくり活動には誰でも参加できるように、今後も継続して積極的に施設や地域団体等に働きかける。 ・さらに協力者を増やすために、積極的に地域団体へ働きかける。 ・地域の方が持つ「力」を活かして、参加・協力したいと思っただけのような活動になるよう企画を検討する。
社協 (担うこと)	・社協の中でプロジェクトをつくる ・社協だよりで、場所の提供者や人を募集する ・活動をサポートする	・地域活動拠点を開設した。 ・部会担当職員を配置し、市民と共に検討し、実施した。 ・チラシを印刷し、配布した。 ・地域住民へ活動を紹介した。	A	・社協だよりで、拠点の広報を行なった。	・居場所を増やすために、マニュアルを28年度に作成し、29年度はそれをもとに活動者を増やす。 ・活動拠点での取り組みを、地域住民に広報する。	・拠点内で行われている活動の内容を日常的に紹介できるよう、活動拠点の掲示板を目立ちやすいものに交換する。 ・社協の掲示板の設置について検討する。
市 (期待すること)	・場所に関する情報提供		B			・活動計画の目標の達成に向けて協力を依頼する。

総合	Do(当期の実施状況)	A	・平成28年2月に開設したほっとハウスみどりで本格的にスタートした「よってらっしゃい」は、通学路に面していることもあり、声かけしたところ、3月に4名の小学生が遊びに来た。(大人は61名)。参加が定着している高齢者とその子どもたちとの世代間交流の予兆を感じさせるできごとであった。 ・具体的な活動目標「だれもが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる」にもとづき活動を展開した。	・「ほっとハウスみどり」での経験を活かして「居場所づくり実践マニュアル」の作成に取り組み、周知していくことで居場所を増やす。 ・課題と成果をまとめつつ「ひと、もの、かね、情報」の項目に照らし合わせ、情報収集や取材にも取り組む。	・「ほっとハウスみどり」における居場所づくり活動を継続することで、地域住民に対する活動計画への理解と活動への参加を促す。 ・マニュアルの作成については、活動計画において設定した目標の達成につながる。
	・居場所づくりの情報収集のために市内外のサロンを見学した。 ・社協地域活動拠点(ふれまちルーム)にて、活動を知ってもらうためのチラシ配布、誰でも立ち寄りやすいイベントを実施した。 ・社協新規地域活動拠点の開設に伴い、居場所づくり部会の活動拠点を「ほっとハウスみどり」に移し、毎週1回サロンを開催した。 ・拠点の開設準備会、イベント、利用団体懇談会、他団体の活動参加などを通してサロン参加者や地域の方とのつながりが生まれてきた。(27年2～3月に7回実施、参加者はおとな80名、子ども4名。) ・拠点開設準備会発足時より部会員が複数参加し、地域の方や団体の方との交流を深めてきた結果、短期間で活動の交流ができた。				

具体的な活動内容	一緒に活動できる機会をつくる
----------	----------------

Plan (当期アクションプラン)	(平成26年度) 【前半】現状イベントの洗い出し、見学 【後半】団体リストづくり、リーダーになるための講座開催 (平成27年度～)話し合いの会をつくる(交流イベント企画に向けた話し合いの場をつくり、実施)
目標(値)	(平成26年度)イベントの見学リストづくり (平成27年度～)話し合いの会発足

評価基準 A 計画どおり実施済 B 計画の50～100%未満の実施 C 計画の1～50%未満の実施 D 未実施

成果	目標値に対する成果	・市内外のサロン活動をリスト化し、見学、取材を行なった。 ・社協の新規拠点の開設に合わせて、居場所づくり部会に関する情報提供や活動者との情報交換を実施した。
	取り組みに対する成果	・情報提供や情報交換をすることで、地域住民や他の福祉団体等とつながりをつくることのできた。

できること・したいこと		Do (当期の実施状況)	Check (自己評価)			Action (進行管理委員会からの意見・提案等)
担い手等	活動計画記載事項		評価	取り組んだこと(良かったこと)	今後の活動に向けて(課題等)	
市民 (できること)	・いろいろな交流イベントに参加する(参加の仕方はさまざま！) ・アイデア出しの話し合いの場に参加する	・市内のサロンを見学した。 ・拠点利用団体が行っている活動に参加し、情報交換を行った。 ・新規拠点開設準備会において居場所部会について説明し、情報交換を行った。	A	・人や団体とのつながりを大切に、コミュニケーションを図ることで活動の協力者が増えた。	・居場所を作ることを優先としたため、活動者を増やすための取り組みは行っていない。	・さらに協力者を増やすためにも、積極的に地域団体へ働きかける。 ・地域の方が持つ「力」を活かして、参加・協力したいと思っていたような活動になるよう企画を検討する。
社協 (担うこと)	・団体リストづくり等の支援を行う ・関係者、関係団体への参加を呼びかける	・サロン見学のための情報を提供した。 ・関係者、関係団体との調整を行った。 ・新規地域活動拠点の見学会を開催した。	A	・新規活動拠点の整備、地域の方々へのPR、つながり作りを心掛けた。	・居場所を増やすために、マニュアル作りを提案。28年度に作成し、29年度はマニュアルを基に活動者を増やす。 ・地域福祉推進係がすすめているサロン交流会と連携を図る。 ・活動しやすい拠点になるよう取り組む。	・備品の整理や看板の設置等について一体的に取り組み、優先順位をつけて、拠点運営委員会と社協で整理して、実行する。
市 (期待すること)	・イベントの共催 ・幅広い分野の部署から交流イベントへ参加 ・市の計画関係者への参加の呼びかけ	新規地域活動拠点の承認を受けた。	B	拠点整備費用について快く承認していただいた。		・活動計画の目標の達成に向けて協力を依頼する。

総合	Do(当期の実施状況)		A	今後の活動の基盤づくりとなった。		・「ほっとハウスみどり」での居場所づくり活動を充実させることで、参加者、協力者をともに増員する。 ・ノウハウの蓄積について取り組む。
	・既存のサロンの見学、取材を行ない、目指す「居場所」のイメージを部会員で共有した。 ・参加者が増えると思われる企画に取り組み、検証をした。 ・声掛けや、地域の活動に参加することで、つながりをつくることのできた。					

平成26-27年度 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理表

人材部会

具体的な活動内容	“地域スカウトキャラバン”をつくる
----------	-------------------

Plan (当期アクションプラン)	(平成26年度) 【前半】・計画周知 ・活動者募集 【後半】 ・人材選定 ・活動ルールを決める (平成27年度)モデル事業を実施し、成功させる	評価基準 A 計画どおり実施済 B 計画の50~100%未満の実施 C 計画の1~50%未満の実施 D 未実施
	目標(値)	

成果	目標値に対する成果	・社協だよりで「地域のタレント」を公募し、12件(11名と1グループ)の応募があった。
	取り組みに対する成果	・人材登録者によるイベントを企画、実施することで、出演者の技術の向上につながった。 ・イベント会場(戦争体験の講演会)において、出席していた学校関係者に人材部会の取り組みについて情報提供をすることができた。

できること・したいこと		Do (当期の実施状況)	Check (自己評価)			Action (進行管理委員会からの意見・提案等)
担い手等	活動計画記載事項		評価	取り組んだこと(良かったこと)	今後の活動に向けて(課題等)	
市民 (できること)	・特技や知識や経験をもっている人を推薦する	・社協だより(27年6月1日号)でタレントを公募した。 ・応募者、団体の活動の様子を見学した。(28年度も継続)	B	・部会長から48件の紹介があり、人材を登録することができた。	・需要と供給のバランスが崩れると、毎週キャラバンを実施することになる恐れがある。 ・イベントを実施するのであれば、1~2回/年くらいのペースがよい。	・これまでの取り組みを活かし、継続して活動者と活動先をつなげるコーディネーションの力を発揮できる方の発掘に取り組む。
社協 (担うこと)	・名簿をまとめる ・参加者を募り、イベントを行う	・名簿を作成した。 ・応募者、団体の活動の様子を見学した。(28年度も継続)	C	・社協だよりで「地域のタレント」を公募し、12件の応募があった。	運営のノウハウ、コーディネートのノウハウ等が可視化できるよう取り組む。	・今後地域の取り組みとしてこの活動を広げていくために、部会員全員が同様の活動に取り組めるよう、部会長の持っている活動のノウハウを蓄積し、マニュアル化する。
市 (期待すること)	・市報等での広報		D			・活動計画の目標の達成に向けて取り組む。

総合	Do(当期の実施状況)		B		・平成28年度中に、イベントを実施する(ASTAセンターコートでの実施を希望。ゆめこらぼのイベントと一緒に実施できるか模索する)。 ・施設職員は多忙なので、一堂に集めるよりも、こちらから施設に出向いて実施することも考える。 ・①人の良いところを見つける②さまざまな交流の機会をつくる③地域スカウトキャラバンをつくるの3つを、繰り返し実施することができれば理想的である。	・社会福祉法人は、社会貢献活動を行なうことが責務として位置づけられたので、法人が運営する福祉施設に地域住民が協力者として入ることによって互いに交流を図ることができ、メリットとなる。 ・活動者と活動先を発掘する活動及びそれをコーディネートできる方を発掘する活動に継続的に取り組む。
	・広報等でタレントを募集し、人材の名簿を作成した。 ・応募者、団体の活動の様子を見学した。					

平成26-27年度 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理表

人材部会

具体的な活動内容	人の良いところを見つける活動をする
----------	-------------------

Plan (当期アクションプラン)	(平成26年度)・企画する ・人情報を収集する ・探す人を集める (平成27年度) イベントに参加(1箇所)	評価基準 A 計画どおり実施済 B 計画の50~100%未満の実施 C 計画の1~50%未満の実施 D 未実施
目標(値)	(平成27年度~)イベントの中で対象になる人を探すプログラムを展開	

成果	目標値に対する成果	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長から48件の人材の紹介があり、人材登録に至った。 ・登録者による講演会(イベント)を企画、運営することができた。
	取り組みに対する成果	<ul style="list-style-type: none"> ・一つのイベントに異なる人材(講演と演奏)をマッチングし、来場者に対して人材部会の取り組みについてPRすることができた。

できること・したいこと		Do (当期の実施状況)	Check (自己評価)		Action (進行管理委員会からの意見・提案等)
担い手等	活動計画記載事項		評価	取り組んだこと(良かったこと) 今後の活動に向けて(課題等)	
市民 (できること)	<ul style="list-style-type: none"> ・対象になる人をさがす ・対象になる人を紹介する(他己紹介) ・企画に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレンドリーを利用して、戦争体験者(語り部)による戦争体験(実話)を発表する行事を企画し、実施した。 ・一部と二部の合間に、人材部会員による演奏(歌)を行った。 ・公民館等へのチラシの配布、部員による口コミ、社協掲示板の活用、市報の活用により広報を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争の真実を市民に伝えることができた。 ・部員の口コミによる広報で、動員数が伸びた。 ・人材部会員の演奏が間に入ることで、重いテーマの講演ではあったが、気分転換ができた。 ・「私にもできること」という+αの部分があり、よかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材及び活動先の開拓について、とても努力をされている。引き続き取り組む。 ・これまで行なってきた取り組みのノウハウを蓄積し、部会員が誰でも同様の技術が身につけられるよう検討する。
社協 (担うこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民から紹介された、対象になる人の情報を活かす ・社協だよりやHPで活動を広める ・社協が行うイベントを活用して、活動をサポートする 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を開催するために会場を確保した。 ・チラシを作成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシの完成が遅かったため、余裕をもってPR活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員と社協の役割を明確にしつつ、社協として部会員と協力して取り組む。
市 (期待すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報について協力(掲示板、公民館)を依頼した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・企画やPRの信頼性を高めるためにも、後援名義を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を行なう際の広報に関する協力を依頼する。

総合	Do(当期の実施状況)		A	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の運営については事前に練習をして臨んだ。初めての体験であったが、とてもスムーズにでき、とてもよかった。 ・ほぼ計画通りに実施できた。 ・演奏を担当した部会員は、会場の下見もして臨んでくださった。 ・部会員の口コミ広報が、動員数を伸ばした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の発掘及び人材と活動先とのマッチングについて、苦労が多い中で成果を出している。 ・マッチング機能が安定して果たせるよう、ノウハウを部会員全員に広げていくとともに、社協としても協力体制を組む必要がある。 ・引き続き、地域福祉活動計画の目標の達成に向けて、活動に取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材登録者による講演会を企画し、実施した。 				

平成26-27年度 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理表

人材部会

具体的な活動内容	さまざまな交流のきっかけをつくる
----------	------------------

Plan (当期アクションプラン)	(平成26年度～27年度) ※「地域スカウトキャラバン」による、さまざまな交流のきっかけをつくるための ・人材の発掘 ・成功モデルの実施 ・振り返り・再試行
目標(値)	

評価基準
A 計画どおり実施済
B 計画の50～100%未満の実施
C 計画の1～50%未満の実施
D 未実施

成果	目標値に対する成果	
	取り組みに対する成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公募者の活動を見学し、人材情報のデータ化に取り組むことができた。 ・部会員が福祉施設を訪問して人材を紹介することにより、登録している人材の活動の場を提供することができた。 ・活動者が地域で活動できるよう活動先の情報収集を行い、マッチングシートを作成した。

できること・したいこと		Do (当期の実施状況)	Check (自己評価)			Action (進行管理委員会からの意見・提案等)
担い手等	活動計画記載事項		評価	取り組んだこと(良かったこと)	今後の活動に向けて(課題等)	
市民 (できること)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントに参加する、周りを巻き込む ・身近な人と交流イベントを行う(交流の手段はさまざま!) 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長を中心に、公民館イベント、ロビーコンサートを見学し、人材を探した。 ・活動者(一芸を持つ人材)を求めている施設等を探した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の福祉施設を訪問し、ニーズの聞き取りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りを行なうことで、地域のニーズも出てきている。 ・データが莫大に蓄積されていく。これらの管理、活用方法について検討する。 ・人材と施設等のマッチングのマニュアル化につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材及び活動先の開拓について、とても努力をされている。引き続き取り組む。 ・これまで行なってきた取り組みのノウハウを蓄積し、部会員が誰でも同様の技術が身につけられるよう検討する。
社協 (担うこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・場の確保や運営のサポート ・行う場面(時期・場所や人材等)の設定や運営をサポートする ・小地域から活動を展開するために、ふれまちと連携する 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もができるように「可視化」しようと取り組んだ。 ・地域の中でマッチングのコツを伝えるしくみ →マッチングシートを作成した。 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・『人の良いところを見つける活動をする』の社協がバックアップした部分を公開する。 ・部会長のように、誰もが同じようにマッチングできるしくみをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開する内容、マッチングの仕組み作りについては引き続き検討し、実施する。
市 (期待すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・場所に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画提案事業 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・関心を持ってもらえるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心を持ってもらうための働きかけをする。

総合	Do(当期の実施状況)		B		<ul style="list-style-type: none"> ・部会員それぞれでも活動していただけるよう、マッチングシートの見直し等も必要である。 ・施設担当者は多忙なので、なかなかその場で依頼者側のマッチングシートへの記入ができない。簡略化や聞き取り調査形式での記入をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材及び活動先の開拓については積極的に取り組まれている。 ・誰もが部会長と同様の取り組みができるよう、これまでの取り組み内容をまとめ、マニュアル作成に取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材情報と活動先の情報収集及びデータ化に取り組み、両者をつなぐためのマッチングシートを作成した。 					

具体的な活動内容		アナログな情報(回覧板・掲示板等)を再活用する			
Plan (当期アクションプラン)		(平成26年度)[前半]・検討する会をつくる・現状を把握する [後半]・関係団体の整理・関係団体への依頼 (平成27年度)企画準備 ・回覧板等の運営方法に関する検討		評価基準 A 計画どおり実施済 B 計画の50~100%未満の実施 C 計画の1~50%未満の実施 D 未実施	
目標(値)		(平成26年度)検討する会の立ち上げ (平成27年度)検討会を開催運営する			
成果	目標値に対する成果	・回覧板実施に向けて、関係団体及び大学生の協力による検討会(部会)を実施した。 ・モデル地区を設定し、自治会や商店会等との連携により実際に回覧板を実施した。			
	取り組みに対する成果	・回覧板キャラクター「快RUNワン!」を作成し、親しみやすい回覧板づくりに取り組むことができた。 ・モデル地区において回覧板アンケートの回答数及び地元商店の協力によるクーポン券の使用数を確認することで、回覧板の取り組みに対する効果を測ることができた。			
できること・したいこと		Do (当期の実施状況)	Check (自己評価)		Action (進行管理委員会からの意見・提案等)
担い手等	活動計画記載事項		評価	取り組んだこと(良かったこと) 今後の活動に向けて(課題等)	
市民 (できること)	・回覧板作成班(仮称)へ協力参加する ・回覧板協力員になる ・大学生の協力をもらう	・回覧板実践に向けた取り組みを検討し、モデル地区を選定した。協力を得るために取り組んだ。 ・武蔵野大学、日本社会事業大学へ学生の参加協力を依頼した。	A	・回覧板企画実施に伴うヒアリングに、田無商業協同組合、民生委員・児童委員、田無町第二区町内会、ふれまち、ほっとネットに協力を得ることができた。 ・武蔵野大学生、日本社会事業大学生の参加、協力を得ることができた。 ・会議に定期的に参加してもらいながら、回覧板へ盛り込む情報や欲しい情報などについて意見交換や提案をもらうことができた。 ・「回覧板アンケート」のロゴやシンボルマークを学生が作成。親しみやすさがあり、良い効果となった。	・取り組みにより、自治会をはじめ、地域の団体や学生等の協力が得られており、こうしたつながりを維持、継続して目標達成に向けて取り組む。
社協 (担うこと)	・関係団体(商工会等)へ特典等を働きかける ・協力員を募集する ・回覧板等の運用に向けた情報収集(仕分け)と掲載情報の発信をする	・青年会議所へ会議への参加協力を依頼した。 ・モデル地区エリアで活動する様々な団体へ、今回の企画に関する広報と協力を依頼した。 ・アンケート作成、配布、集計等に関する支援を行った。	A	・青年会議所から会議に参加していただいた。回覧板につける「クーポン券」への協力依頼を行い、アンケート配布時の特典を付けることができた。お店側も積極的に協力して下さった。 ・町内会の協力を頂き、市民へ地域福祉活動計画に関するチラシを配布し、周知活動を行なった。 ・アンケートから市民の意見を集め、今後の活動の方針づくりに役立てた。	・既存事業における人材情報(ふれまち・ほっとネット・ボラセン等)を、どのようにしたら活用できるかを念頭に置いて取り組む。 ・社協が実施する地域福祉事業と連携し、効率的、効果的に回覧版の仕組みづくりに取り組む。
市 (期待すること)	・「回覧板復活」に向けた支援(例)免税クーポンの検討など ・活動実施に係る全面的な後援及び共催 ・回覧板実施をPR	・協働コミュニティ課に自治会の取組みに関する情報収集と確認を行った。 ・モデル地区でアンケートを実施することの報告や、実施後の報告を行った。	C	・活動自体への支援を頂くところまで進まなかったため、情報交換を密に行うことができなかった。 ・様々な活動への広報的な支援を打診する。 ・支援を頂くための情報提供を積極的に行う。	・関係窓口とつながりができるように、支援を依頼する。

総合	Do(当期の実施状況)		B	・アンケートの回収率が思ったより伸びなかった。 ・協力して下さった自治会で、回覧板に関する意識を取り上げたり、回覧板を回す仕組みを活用したかったのだが、自治会自体が抱えている悩み(自治会員の高齢化や自治会参加者、協力者の減少等)があったため、回覧板に関する意識の十分な吸い上げ、既存の仕組みを活用することができなかった。 ・アナログ情報に関する取組み分析を重ねながら、今後の進め方を検討する。 ・これまでに協力いただいた方との関係を継続し、新たなターゲットとなりうる市民層への働きかけを進める。	これまでの実績を踏まえ、継続して活動計画の目標の達成に向けて取り組む。
	・毎月の会議を経て、回覧板実践に向けた取り組みを企画、実施した。 ・大学生の協力を得ながら、回覧板アンケートの内容を作成した。 ・アンケートを会議メンバーで手分けして配布した。 ・アンケート実施やクーポン券の発行などを通じて、青年会議所や田無商業協同組合、田無町第二区町内会とのつながりや協力を得られた。 ・アンケートの集計や内容をまとめ、振り返りを行う。次年度への取り組み方法について検討した。 ・協働コミュニティ課に自治会に関する情報提供を依頼。今回の取組みをまとめ、報告した。				

平成26-27年度 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理表

情報部会

具体的な活動内容	デジタルな伝達手段を活用する
----------	----------------

Plan (当期アクションプラン)	(平成26年度)市民参加の検討会の開催 (平成27年度)現状の把握 ・デジタル媒体、活用方法の検討 ・既存調査の活用 ・現状媒体の調査実施
目標(値)	(平成26年度)検討会を開催する (平成27年度～)・現状を把握する ・現状媒体の調査実施

評価基準
A 計画どおり実施済
B 計画の50～100%未満の実施
C 計画の1～50%未満の実施
D 未実施

成果	目標値に対する成果	・未実施
	取り組みに対する成果	・未実施

できること・したいこと		Do (当期の実施状況)	Check (自己評価)			Action (進行管理委員会からの意見・提案等)
担い手等	活動計画記載事項		評価	取り組んだこと(良かったこと)	今後の活動に向けて(課題等)	
市民 (できること)	・市民参加型の会で意見を述べる・大学生の協力をもらう ・多くの市民が情報を得られるように、お互いに声かけをする	未実施	D		・大学生への協力は得ることはできたが、活動内容に関する取り組みを行っていない。	・活動計画の目標の達成に向けて取り組む。
社協 (担うこと)	・企業や関係団体等へ参入を働きかける ・ホームページを活用してPRをする	未実施	D		・青年会議所の協力を得ることができたが、活動内容に関する取り組みを行っていない。	・活動計画の目標の達成に向けて取り組む。
市 (期待すること)	・関係団体への働きかけ ・市報等での広報	未実施	D		取組んでいないため、働きかけていない。	・活動計画の目標の達成に向けて取り組む。

総合	Do(当期の実施状況)		D		・今年度の話し合いの中で、フェイスブックを活用して情報発信してはどうかという提案があったが、まずはアナログな情報伝達への取り組みに専念し、着手しなかった。	・活動計画の目標の達成に向けて取り組む。
	未実施					

第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理表

情報部会

具体的な活動内容	必要な情報を集め・広める
----------	--------------

当項目については、第5回 第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会<平成29年2月14日(火)>の検討結果にもとづき、「アナログな情報(回覧板・掲示板等)を再活用する」及び「デジタルな伝達手段を活用する」に統合化する。